
♪
♫
えっ？
ドクン
小島葵さん！
あなたに
命じる！
契約に従い
我に
服従せよ！
あ…ぎぎ……
やったぁ！
うまくいった！


…何か様子がおかしいけど…催眠状態に入ってるみたいだからいっか…
それじゃ次は…
キラ
キラ
ポーン
よしっ！
ぽや
ぽや
変身はうまくいった！


それじゃ
小島さんに
命令するね
ここに小島さんが
二人いるとまずいから
すぐに家に帰ること
それと今起きたことは
キレイに忘れることっ
だっ
大丈夫かな…（汗
……
それじゃ
小島さんの体と彼氏
ちょっと借りるね
……
そうそうっ
俺が変身を解けば
小島さんの洗脳も
解けるみたいだからっ！
私…
ご主人様の
言いつけ
守らなきゃ…


確か…
小島さんの彼氏って
2組の上条だったよな…
まだ教室に
いると
いいんだけど…
櫻山先輩に告白して
サキュバスにされてから
3日経った…
最初は人間じゃ
なくなったことに
戸惑ったけど…
って！
息が苦しいっ
ちょっと
走っただけなのにっ
サキュバスの時は
こんな息切れ
しないんだけど…
人間の女の子って
こんなに弱いんだ…
脱皮した自分の皮を着れば
元の姿に戻れるし
結構サキュバスとしての
生活も楽しい


櫻山紗里先輩…
眉目秀麗な顔立ち
誰もを魅了する
妖姿媚態な彼女に俺は
一目ぼれしてしまった
だが彼女の正体は
サキュバスだった…
俺が意を決して
告白すると
先輩からの返事は
まさかのOKだった
だが櫻山先輩は
キスのふりして
突然噛みついてきた


俺は体中の血液が
煮えたぎるような感じに
襲われ苦しんだ…
すると何故か
背中に切れ目が入り
俺の中から別の少女が
出てきた
櫻山先輩と付き合う
ことと引き換えに
俺は幼少期の
櫻山先輩の姿で
サキュバスとして
生まれ変わったのだった
はぁはぁ…
ついた…
2－2


櫻山先輩から
教わった通り
心を落ち着けて…
頭の先から
つま先まで
神経を張り巡らす
感じで…
俺は小島奏さん…
俺は小島奏…
わたしは…
よしっ☆
これで
完璧ね！
よかったぁ…
まだ教室に
いたんだね♡


どうしたの？
奏……
先に帰るんじゃなかったの？
びっくりした…
上条の顔を見たとたん凄く心がときめいた…
ドキドキ
ホッ
上条の声を聞くだけで凄く心地いい…
暖かくて…包み込むようなそんな安心する声…
心臓がドキドキして息をするのもつらい…
はあ…♡
小島さんってこんなに上条の事好きなんだ…
そうだ奏にこの前も言ったけど
俺の友達が奏に会ってみたいって言ってるんだけど
今日これから会わない？


えっと…
男の子って
ちょっと怖いし
上条君の友達でも
無理かも…
それに私
人見知りだしw
ごめんねっ
すげぇ…
俺小島さんの口調で
しゃべってる…
っち…
きゃっ！
俺の大事な友達が
会いたいって
言ってんのに
何おめぇ
俺に逆らってんの？
何かムカつくんだけど
おめぇはいつから
俺にそんな口答え
できるようになったんだ？
あ？
えっ…？


甘い言葉かけたら
彼女ずらして
図に乗って
めんどくせぇから
俺だけで
ヤっちまうか
上条の奴…
小島さんの事
そんな風に
思ってたんだ…
ちったぁ
見た目がいいから
ヤリ捨てするか
ツレと回すか
しようと思ったが
ハンッ
騒ぐんじゃ
ねぇぞっ！
まぁどうせ
近くには誰も
いねぇけどなw


おらっ
股開けよ！
入んねぇじゃ
ねえか！
えっ？
ちょっ
待て待て！
こいつ…
前戯もなしに
挿入するつもりかよっ
こうなったら
もうしようがない！
魔女の誘惑
チャーム


はぁ…はぁ…
お願いだ…
キ…
キス…して
くれぇ♡
チャームも
うまくいった…
これで俺の
命令しか
聞けないはず…
キミねぇ…
折角の食事タイム
だったのに
よくも
台無しにして
くれたわね…
あ…
あぅ…
まぁ結局
ヤることは
変わんないんだけどね♡
さて……
大好きな上条君は
どのくらい私を
満足させて
くれるのかしら？♡


上条君さ…
すごく美味しそうに
舐めてるけど
さっき
おしっこしてきた
ばっかりなんだけどな
まるで
犬みたいだね…
か…なで…
何？
ちん○ん
シゴいて欲しいの？
あっ
我慢汁いっぱい
出てきた♡
いい匂い♡
あっ
ん…
ビクッ
脚でしごかれて
そんなに気持ちいいの？
ホント変態だね♡
ギンギンに
反って気持ち
良さそうだけどさっ
私の靴下が
汚れちゃうから
イかないように
我慢しなさいよっ
グリグリ♡


ビクンビクン
れー！
ビクンッ
ヒクンッ
ひゃっ！
舐めただけで
何かイっちゃいそう
じゃない？
ホント
だらしないよね
キミって♡
キミ早漏気味なくせに
立派なモノ持ってるから
入らないかと思った♡
大きさだけは
別格で男らしくて
ホント生意気♡
踏まれて
悦んじゃう
クズち○ぽの
くせに
ほらっ
もっと腰
振りなさいよっ♡
お腹の中を
かき乱すみたいで
すごぉ…♡
んっ♡
あんっ♡
ひぃんっ♡


すごく苦しそうな顔してるけどもうイきそうなの？
あれだけ私を乱暴に扱ったからもっと楽しませてくれるかと思ったのにホント期待外れｗ
でも私…お腹ペコペコだから
グチュッ♡
死なない程度にキミの精液もらうね♡


精液いい！
いっぱい頂戴いっ！
んっ♥
きたぁ♥
イキのいい精子ぃ♥
最っ高！♡
あッ♡
あっ♡
中で…いっぱい…
どぴゅどぴゅ
してるぅ♥
ドクドク
ドクッ
ドプ…


子宮の中に精液が押し寄せる…♥
気持ち良すぎて…死んじゃいそっ♥
ほらほらまだ全部出してないんでしょ？
またさっきみたいにぴゅーぴゅーしてよ♡
ずくっ♥
ずくっ♥
ずくっ♥
あぁんっ♥


わたしまだ満足してないから♥
キミの精液全部搾りとって…
違うっ！そうじゃない！
快楽に流されるな…っ
またこの前みたいに戻ってこれなくなる…

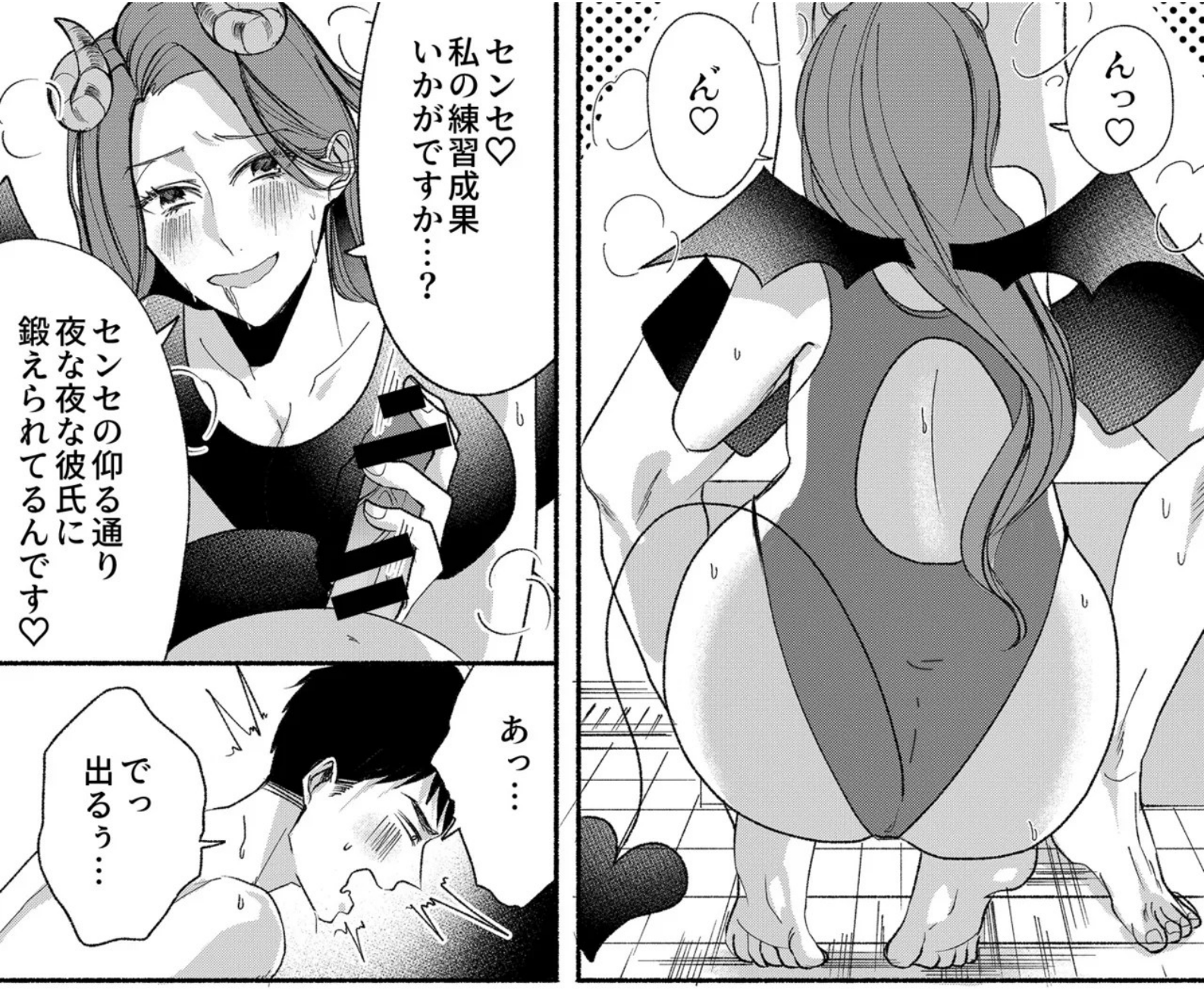

ダメだ…
気持ち良すぎて
とまんなひい…♡
これ以上は…
ダメなのに…
衝動を
抑えなきゃ…
また櫻山先輩に
迷惑をかけちゃう…
でも…
もう少しだけ…♡
もう少し
だけなら…♡


はっ♡
あんっ♡
もうっ♡
ズポッ
パンッ
ズポッ
わたし…
もうダメ…っ
ジュポッ
ヴィーン
あんっ♡
ビクン


あっ♡
熱いの…いっぱいきたぁ♡
ビクッ
ビクン
ビクン♡
ビクン♡
ビクン…
ビクン


ハァ
ハァ
プシャァァ…
ち○ぽぉー♡
もっとち○ぽ
ほしぃ♡
ポタッ
ポタ
ポタ…
もっと…
もっと…♡
いっぱい
セ○クス
したぁい♡
ハァ♡
ハァ♡
ハァ♡


いたぁ…♡
ったくお前さ！
今まで何やってたんだよ！
練習してる振りして
サボってたんじゃ
ねぇーだろうなっ！
3
まぁお前の場合は
その巨大な胸が邪魔して
練習にならんかw
彼氏に夜な夜な別の
トレーニング
されてんじゃ
ねーだろうな？w
肩書だけの
エロ教師がっ
チッ…
死ねよっ！
ふわっ
えへへ…♡
ニュー…


んっ♡
ん♡
センセ♡
私の練習成果
いかがですか…？
センセの仰る通り
夜な夜な彼氏に
鍛えられてるんです♡
あっ…
でっ
出るぅ…


まだ出しちゃ
ダメですよっ
センセ♡
いっぱい我慢して
あたしの子宮に沢山
どぴゅーって
するんでしょ？♡
っていうかセンセ
あたしの水着姿
エロい目で見て
勃起してたよねw
どんだけ変態なんだかw
あがが…
ぎぎ……


でもだーめっ
センセって全然タイプじゃないもん♡
だからねっあたしの性奴隷にしてあげる♡
うれしいでしょ？
でもセンセのち○こはおいしそうだから好き♡
念入りにキレイにしないとね♡
あーん
青臭くてギンギンに反ってタマタマにいっぱい溜まってそう♡


ぢゅー
センセのコレ大好きっ♡
早く入れて♡
あぁっ♥
あっ
ぬぷっ
ぬぷっ
ぬぷ


シュー
今度はもっと若い男を…
ドン!
ったく
ってぇなぁ!
さっ
櫻山先輩…っ!
あたし…何て言ったっけ?言ってみろん?
ひっ!
ごめんなさいごめんなさいっ
まぁあたしの顔見て正気に戻ったから許してあげるけど…
ったく…あれだけ快楽に溺れちゃいけないって言ったでしょ!
返す言葉もございません…
ん…?


あれっ？小島さん？
何でここに？
家に帰れって
命令した
はずなのにっ！
ったくお前は
洗脳もろくに
できないのかよ！
ごめん
なさい…
何っこの子！
超かわいいんだけど！
奇跡的な
かわいさだって
コレ！
その恰好コスプレ？
角としっぽ本物みたい！
それどうやってんのっ？
ひっ！
う…ん…
あれ…？
私…
ここ
どこ…？
ん～？
私…確か帰ろうと
してたと
思ったけど…
あれ～っ？
小島じゃんっ！
こんな所で
何やってんの？
あれぇ…？
なんで夏海が…
っん？
えっ？
こうなったら
しょうがない…
もう一回
洗脳して…
なになに？
魔女っ子ごっこ？
それじゃ一緒に
お姉さんと
遊ぼうか…♡
ぎゃっ
ちがーうっ！


事情説明中
むしろ猛烈に尋問中
そういう事だからこのサキュバスのサラはあたしが召喚して従属化させてるから…
適当にうそをついて後であたしが洗脳をすればいいか…
へぇ…サラちゃんってすごいんだね♡
ねぇ私たちも仲間に入れてよ♡
サキュバスなんて言われると俄然興味が湧いてきちゃったなぁ♡
こいつらぁ…っ
調子に乗りやがってっ
待てよ…
晴幸はちょっとおっちょこちょいで心配だから
こいつらをサキュバスにして晴幸の代わりに食料を集めさせれば良くないか…？
集めさせてる間晴幸はあたしがじっくり教育してやればいい…っ
おいっサラ！
こいつらもこう言ってるんだから首筋に噛みついてサキュバス化させてお前の下婢（はしため）にしてこき使ってやれ！
さすが櫻山先輩！話がわかるぅ！


ガブっと
いって
みようかっ♡
ほら
ほらっ♡
そ…
それじゃ…
んめ。。
んっ♡
あんっ♡
全然痛くない…
むしろ
気持ちいいくらい…


凄い……っ
力が湧き上がってくる…
私じゃないみたいっ！
これが…
サキュバスの力…
ハアアアアア…


これでお前たちは
サラの下婢になり
重ねてあたしの
眷属になったわけだ
これからはサラと共に
あたしの命令に従い
行動するよう……
サラちゃん私ねっ
小っちゃいころから
魔女っ子とか凄く
憧れてたの♡
だからねっ
サラちゃんの仲間に
なれて凄く嬉しいよ♡
おいっ！
人の話を聞いてるのか！


ちょっとぉ！
夏海！
サラちゃんは私の
なんだからねっ！
はぁ～？
何言ってるか
分かんないしっ！
奏はいつもそうやって
横取りするよネ！
ふふふ…
チューしちゃった♡
これで私のもの
だからね♡
あ～っ！
ずるーいっ！
晴幸っ
ちょっと
こい！
晴幸い～？
お前誰の彼氏か
分かってるん
だよなぁ？
よーく考えて
行動しろよぉ！
うわあっ！
ホントお前さぁ
いつもあたしを
イライラさせるの
うまいよねぇ！
怖ぇ…っ！
明日の朝まで
徹底的に
再教育してやるから
覚悟しとけ！
ひぃ～っ！